

【科目名】	ヒューマンゲノミクス		Human Genomics		
【開講学科】	食品生命科学科 栄養生命科学科	【必修・選択】	食品生命科学科 専門・選択 栄養生命科学科 専門・選択	【単位数】	1.0単位
【配当年次】	2年	【開講時期】	2024年度後期	【オフィスアワー】	月～金：昼休み、水：5時限 部屋番号：2220
【科目責任者】	小林公子				
【担当教員】	小林公子				
【授業目標】					
●授業目的	ゲノムを通して見た生命現象および遺伝子の多様性と健康や病気との関係について理解を深める。				
●到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・ 遺伝子突然変異がヒトに与える影響を説明できる。(D) ・ 遺伝子の多様性と病気・健康との関係を説明できる。(D) ・ ゲノム科学の進歩とその成果を説明できる。(D) 				
【授業展開】	<ol style="list-style-type: none"> 1. ヒトゲノムの特徴：ヒトゲノムの特徴について理解を深める。 2. 色覚遺伝子とその進化：色覚遺伝子を例として遺伝子の進化と多様性を理解する。 3. ヒトにおける性決定と性染色体の進化：ヒトの性決定機構と性染色体の進化について理解する。 4. ゲノムインプリンティング：父方ゲノムと母方ゲノムの違いおよびインプリンティング機構を理解する。 5. がん遺伝子：がん遺伝子、がん抑制遺伝子の働きおよびゲノム情報を利用したがん治療の現状を学ぶ。 6. 遺伝子の多様性：遺伝子の多様性が栄養素の代謝や生活習慣病の発症に与える影響を学ぶ。 7. ゲノム医療と先制医療：医療技術の進歩が私たちの健康や病気と与える影響について考える。 8. 全体のまとめ：総合討論、今後の課題と展望 				
【評価方法】	遺伝子の多様性と健康や病気との関係についての理解度を筆記試験により評価する。				
【テキスト】	<p>参考図書</p> <p>「アメリカ版 大学生物学の教科書」 D.サダヴィア 他著（講談社）</p> <p>「レーニンジャーの新生化学」 D.L.Nelson, M.M.Cox 著（廣川書店）</p> <p>「ゲノム医学」 T.Strachan 他著（メディカル・サイエンス・インターナショナル）</p>				
【参考書】					
【その他（注意事項）】	<p>筆記試験の受験資格は3分の2以上の出席を必要とする。</p> <p>JABEE関連項目（食品生命科学科）</p> <p>JABEE学習・教育到達目標との対応：D(O)</p> <p>授業は対面で開講する予定であるが、状況によってはオンラインも活用する。</p>				
【授業評価の意見に対する対応】	ヒトの生命現象に関わる身近な例をとりあげることで、学生の理解や勉強意欲の向上を図りたいと考えている。				
【社会人聴講生】	可	【科目等履修生】	可	【交換留学生】	不可

【科目名】	茶学入門	Introduction to Tea Science			
【開講時期】	2024年度後期	【開講時限】	木曜1限		
【科目責任者】	*中村 順行				
【担当教員】	*中村 順行 他				
【授業目標】	静岡に立地する本学学生の教養として、茶に関する広範な知識を学ぶ				
【授業概要】	<p>静岡県は全国有数の茶葉、飲料、加工食品の生産県であり、本学を含めた複数の大学や国公立の試験研究機関、民間企業において茶関連の食品、医薬品、化成品の研究が活発に行われている。したがって本学の学部生や大学院生はそれらを就職先として考えることも多い。また、静岡県においても「茶の都」づくりの推進や本学内にも茶学総合研究センターの設置など、茶をKeywordとした取組も多い。このような背景のもと、学生には、学部を問わず茶に関する広範な知識と教養を身につけることが望ましい。そこで、当科目は茶についての歴史、文化、経済、生産、加工、味、香り、生理機能、茶の多用途利用・商品化など広範な項目をそれぞれの専門家に解説して頂き、知識を深める</p>				
【授業方法】	プリントやプロジェクターを使った対面式講義				
【授業展開】	<p>1. ガイダンス：講義の進め方、成績評価方法、茶学に関する概説等 2.3. 茶の歴史、文化：茶の起源、飲用方法、茶にまつわる因習等の文化的、歴史的な面についての概説 4.5. 茶の種類、生産、加工、飲用方法：多種多様な茶種が栽培、加工されており、それに関する最先端技術の紹介、各茶種の特性を活かした、茶の淹れ方、飲用方法について科学的な概説 6.7.8.9. 茶の機能：茶を特徴づける成分について、その特徴、機能、効能等を化学的、生理的に概説 10.11.12. 茶に関わる商品開発、マーケティング：茶の特性、機能性、生理活性を活かした商品開発への展開、消費者へ届くマーケティング戦略、茶畑の景観を生かしたグリーンティーリズム等 13.14.15. 茶の静岡県、日本、世界へ向けた施策及び、次世代への展望：静岡県の茶の都づくり、世界へ向けた日本茶の輸出についての取り組み、茶の特性を活かした、次世代への展開について概説、総括</p>				
【履修条件】					
【評価方法】	原則的に、授業への取り組み姿勢及びレポート・小テストなどにより評価する				
【テキスト】	必要に応じて担当教員が紹介する				
【参考書】	必要に応じて担当教員が紹介する				
【備考】	講師陣として、茶関連研究の第一人者をゲストスピーカーとして招きつつ、幅広く茶学の初歩部分全般を講義する				
【社会人聴講生】	社会人聴講生は30名まで	【科目等履修生】	可	【交換留学生】	可

【科目名】	静岡地域食材学A	Local Food Materials A		
【開講時期】	2024年度後期	【開講時限】	木曜1限	
【科目責任者】	三好規之			
【担当教員】	三好規之、谷晃、*静岡県庁経済産業部の職員ほか			
【授業目標】	静岡県内で生産されている特徴ある食材に関して広範に学ぶ。			
【授業概要】	静岡県は茶のみならず柑橘類、わさび、日本酒、畜産物、水産物においても高い生産額や品質を誇る。さらに、学部生や大学院生が地元の食品産業に就職する可能性も高い。このような背景のもと、静岡県立大学の学生には学部を問わず、地域の食材に関する広範な知識を教養として身に付けて欲しい。そこで、本科目では、静岡県内で生産される複数の食材について、歴史、生産、加工、成分の化学、生理機能などに亘る広範な項目をそれぞれの専門家が解説する。Aでは、おもに静岡県の農業、畜産業および水産業について、それぞれに特色ある食材を取り上げる。			
【授業方法】	本学教員と静岡県職員によるオムニバス形式の講義で、配付プリントとスライドを使って行う。			
【授業展開】	<ol style="list-style-type: none"> 1. 初回ガイダンス（講義の進め方と成績評価法の説明） 2. 静岡県の食に関する生態系 3. 静岡県の食料生産 4. 静岡県の農作物 5. 静岡県の畜産物 6. 静岡県の水産物 7. 静岡県の食文化 ※一部の講義を外部講師に依頼するため、講義の順番が変わる場合もあり。			
【履修条件】				
【評価方法】	出席状況とレポートを総合して評価する。			
【テキスト】	必要に応じて講義担当者が紹介する。			
【参考書】	必要に応じて講義担当者が紹介する。			
【備考】				
【社会人聴講生】		【科目等履修生】		【交換留学生】

【科目名】	静岡地域食材学B	Local Food Materials B			
【開講時期】	2024年度後期	【開講時限】	木曜1限		
【科目責任者】	江口智美				
【担当教員】	市川陽子、江口智美、下山田真、増田修一、*静岡県工業技術研究所の研究員（特別講師）ほか				
【授業目標】	静岡県内で生産されている特徴ある食材に関して広範に学ぶ。				
【授業概要】	静岡県は茶のみならず柑橘類、わさび、日本酒、畜産物、水産物においても高い生産額や品質を誇る。さらに、学部生や大学院生が地元の食品産業に就職する可能性も高い。このような背景のもと、静岡県立大学の学生には学部を問わず、地域の食材に関する広範な知識を教養として身に付けて欲しい。そこで、本科目では、静岡県内で生産される複数の食材について、歴史、生産、加工、成分の化学、生理機能などに亘る広範な項目をそれぞれの専門家が解説する。Bでは、おもに静岡県の優れた食品加工技術や機能性食品、未利用資源の活用などについて取り上げる。				
【授業方法】	対面授業。 本学教員と県内の研究所・企業・大学の講師によるオムニバス形式で、配付資料やスライドを使ってレクチャー形式の講義を行う。				
【授業展開】	<ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーション、静岡県の米加工品 2. 静岡県の発酵食品（大豆を中心に） 3. 静岡県の水産加工品（かつお節、はんぺん） 4. 静岡県の食品加工技術（缶づめほか） 5. 静岡県の機能性食品（わさびほか） 6. 静岡県の未利用資源①（鹿肉） 7. 静岡県の未利用資源②（魚類） ※一部の講義を外部講師に依頼するため、講義の順番が変わる場合がある。				
【履修条件】	なし				
【評価方法】	出席状況とレポートを総合して評価する。 出席は、原則として、授業回数の3分の2以上（5回以上）を必要とする。 レポートは、講義内容に関する200～300字程度のミニレポートを毎回課す。				
【テキスト】	必要に応じて講義担当者が紹介する。				
【参考書】	必要に応じて講義担当者が紹介する。				
【備考】	*特別講師の静岡県工業技術研究所の研究員、県内食品製造業の開発担当経験者、県内大学教員が、静岡県の特色ある加工食品の特徴や製造技術、流通や販売等について解説する。 初回授業日は、後期の8回目（2024年11月21日）。				
【社会人聴講生】	受入可	【科目等履修生】	受入可	【交換留学生】	受入不可

【科目名】	自然科学概論	Science of Light			
【開講時期】	2024年度後期	【開講時限】	木曜1限		
【科目責任者】	橋本 博				
【担当教員】	橋本 博、原 幸大、菱木麻美、淵上壮太郎、轟木堅一郎、古庄 仰、近藤 啓、照喜名孝之				
【授業目標】	現代は科学技術の時代である。この科学技術の中核を担う物理学、化学そして生物学は、西洋世界でどのような経緯で生まれ、発展してきたのだろうか。この自然科学の発展に伴い、我々の自然観、科学観も大きく変質してきている。また、現代のイノベーションを推進する巨大科学とプロジェクト科学、および環境との共生を目指す視点が求められている。さらに、エセ科学の蔓延などの問題も抱えており、生命観、宗教観および倫理観までの波及を思考することが求められている。これらの問題意識をもって、西洋2000年の通史を俯瞰し、最新の科学と技術も多面的にとりあげる。この温故知新より、科学研究の本質あるいはその精神といえるものを理解していただけるだろう。				
【授業概要】	大まかに次の4主題に別けて概説する。 1. 自然科学通史（自然哲学から近代科学へ、科学倫理） 2. 光と物質（光とは何か、量子化学の誕生、原子・分子が見える） 3. 「はかる」の科学 4. 環境、健康科学での科学技術の展開				
【授業方法】	配布するプリントを使用したオムニバス講義を行う。演習形式も取り入れた形成評価も実施して学習効果を計る。対面授業を予定しているが、状況に応じて遠隔講義となる可能性もある。				
【授業展開】	（ ）内はキーワード 1. 科学史 2. 科学論文 3. 科学技術と科学者の役割 4. 光の科学史 5. 波動の性質 6. 計算科学の発展 7. 分析科学とは（分析技術の進歩、これから目指すもの） 8. 臨床と分析科学（画像診断、診断キット、遺伝子診断など） 9. 食品と分析科学（食品分析、機能性表示食品、残留農薬分析など） 10. 裁判と分析科学（科学鑑定、DNA鑑定、薬物鑑定、ドーピング検査など） 11. 環境と分析化学（環境分析、年代測定、放射線測定など） 12. 先端技術と倫理（1） 13. 先端技術と倫理（2） 14. くすりの開発とアドヒアランス 15. まとめ（現代科学技術の問題点など）				
【履修条件】	理（医療）系の学生を主な対象としているが、文系の学生にも分かり易く説明し、数式などはあまり使わない。				
【評価方法】	授業への取り組み、課題、レポートなどの総合評価。				
【テキスト】	なし（必要に応じてプリントを配布）。				
【参考書】	随時指定（図書館に配備されているものを指示する）。				
【備考】	・講義ごとに演習、レポート作成を課すので、遅刻などは厳禁である。全講義回数の3分の2以上の出席を単位認定のための必要条件とする。薬学部の生命物理化学分野、生体機能分子分析学分野、創剤科学分野の構成教員が分担する。 ・製薬メーカーの研究所で研究者として医薬品研究開発に携わった経験のある教員が、企業の研究開発業務で考慮されている倫理観を交え、科学・技術の進展と生命倫理について解説する。 ・基本的には対面講義形式をとるが、場合によってはオンライン講義形式等もある。				
【社会人聴講生】	聴講可	【科目等履修生】	聴講可	【交換留学生】	聴講可

【科目名】	基礎生命科学 II	Introduction to Life Sciences II			
【開講時期】	2024年度後期	【開講時限】	金曜1限		
【科目責任者】	Toshiro Ohta (太田敏郎)				
【担当教員】	Toshiro Ohta (太田敏郎)				
【授業目標】	<p>The main purpose of this course is to help beginners in English develop their English reading, listening, and some writing skills. Also, students will be introduced to some interesting topics in the field of Life Sciences.</p> <p>網羅的な生命科学概論が目的ではなく、学生が生命科学関連の基本的な英語表現に慣れ親しみ、科学的内容の英文を読解・作文し聞き取る能力を高めることが主な目標。入試後に衰えがちな語彙力の強化も重視。主に1~2年生(大学初~中級レベル)の総合的な英語力向上(留学生なら日本語力向上)のための授業ですが、英語のインプット不足で英単語力や長文読解力・文法力が低下している3~4年生への対応も目的の一つ。</p>				
【授業概要】	<p>Students will read news articles from the Voice of America Learning English program that cover interesting topics in Life Sciences and listen to native speakers of English read them aloud. They will also translate these articles into Japanese and back into English. DUO, a general-purpose workbook, will be used for vocabulary building. In addition, important grammatical topics will be covered in detail.</p> <p>1. 世界中で利用されている英語教材Voice of America Learning English(略してVOA)の生命科学に関するエピソードを正確に和訳する演習: 英文を素早く正確に理解するため視覚的に構文解析し、個別的文法項目を高校よりも詳しく解説 2. VOA英文を再現する英作文演習(聞き取り演習は各自で) 3. 汎用英語例文集DUOを用いた語彙演習(和訳、英訳、聞き取り、発声の4技能): 前期の基礎生命科学Iの継続(後半部分) 4. 学生からの要望が多いため、初心者向けの簡単なTOEIC対策: 後期はp3&4(前期にp1&2) (1~3は大量の英文と単語・フレーズの意味を正確に理解してインプットし忠実にアウトプット、4もインプット演習だが量少なめ)</p>				
【授業方法】	<p>Students will go through multiple assignments and exercises to improve their English skills.</p> <p>対面が原則、一部の回(半数を超えない範囲)では遠隔演習も実施。詳細はUNIPA授業資料でご確認ください。</p>				
【授業展開】	<p>1. Course Introduction 2-5. Fat Cell Gene Linked to Colon Cancer 6-8. Long History, Unclear Future for 'Golden Rice' 9-11. Gut Bacteria: We Are What We Eat 12-14. Progress Made in Fight Against Ebola 15. Course Summary</p> <p>In addition, vocabulary exercises using DUO and TOEIC exercises will be conducted on a near-weekly basis. 一部の講義内容や順番は変わる場合があります。 ※シラバスに書ききれない詳細はUNIPA授業資料で(履修登録期間中に仮登録してご確認ください)</p>				
【履修条件】	<p>Both natural science students and social science students can participate.</p> <p>学部・学年を問わず英単語力・長文読解力の強化や科学英語に興味がある学生を歓迎。国際関係学部と経営情報学部の学生も数多く受講(多い年で約5割、平均で約2割)。食品栄養科学部の食品生命科学科と栄養生命科学科の1&2年生で科学英語科目を補いたい学生には受講を推奨。環境生命科学科の学生はDUOなど一部の演習が環境科学英語Iと重複しますが、その点を理解した上で受講可能。文法に自信がない学生は、英文法を包括的に学ぶ実用科学英語基礎編と並行してこの基礎生命科学IIで個別的文法事項について学ぶことを強くお勧めします。参考までに、最終回に実施したまとめアンケートでは、後輩に受講を薦めたいポイントとしてDUO演習(学生ペアワーク)が圧倒的に多く挙げられていました(受講者の過半数がDUOペアワーク演習を気に入って前期の基礎生命科学Iから継続受講した模様)。</p>				
【評価方法】	<p>Evaluation will be based on assignments. Must not miss more than 1/3 of the weekly classes.</p> <p>成績は全て課題(提出状況と内容)で評価。単位認定には3分の2以上の出席が必要(詳細はUNIPA授業資料で)。</p>				
【テキスト】	<p>鈴木陽一 著「DUO 3.0」[アイシービー] 神崎 正哉 / Daniel Warriner 著「TOEIC L&R TEST 初心者特急パート3」[朝日新聞出版] 神崎 正哉 / Daniel Warriner 著「TOEIC L&R TEST 初心者特急パート4」[朝日新聞出版] VOA episodes and other materials will be handed out by the instructor whenever necessary.</p>				
【参考書】					
【備考】	<p>※後期に全学共通科目として以下の講義を担当しますので、科目を選ぶ際の参考にして下さい。</p> <p>1. この基礎生命科学II:主に1~2年次対象、大学英語の基礎を学び直したい上級生も歓迎(大学初~中級、TOEIC初級) DUO語彙演習で汎用英単語力を維持強化(TOEICにも有効)、英文和訳&英作文演習と個別的文法解説 TOEIC対策:初心者向けp3&4演習&解説(いずれも基本的に前期の基礎生命科学Iの継続)</p> <p>2. 実用科学英語基礎編:全年次対象、実用的英文法を包括的に演習&解説(大学初級~上級、TOEIC初級~中級) TOEIC対策:p5&6のコツを解説&演習、全p即効テク解説&演習、スキマ時間に簡便なp2演習</p> <p>※前期に担当する全学共通科目も参考までにご紹介しておきます。</p> <p>3. 基礎生命科学I:後期の基礎生命科学IIの前半に相当、初心者向けTOEICp1&2演習&解説 4. 実用科学英語応用編:主に2~4年次対象(大学中級、TOEIC中級~上級) 和訳演習(多読速読)と個別的文法解説、TOEICp1~4熟練スキル演習&解説</p>				
【社会人聴講生】	Not possible	【科目等履修生】	Not possible	【交換留学生】	Possible

【科目名】	情報科学概論	Computer Science			
【配当年次】	1年	【開講時期】	2024年度後期		
【科目責任者】	小田紘久				
【担当教員】	*小田紘久				
【授業目標】					
●授業目的	「情報科学」に関する基礎的な事柄の概要の習得				
●到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・コンピュータの基本機能と計算する機会から知識増幅を支援する機械への発展について理解する。 ・コンピュータハードを実現するための2進数、ブール代数、トランジスタ、メモリのしくみについて理解する。 ・簡単なデジタル回路の設計やマイコンと電子回路について理解する。 ・基本ソフトウェアと表計算ソフト、文字入力ソフトなどの応用ソフトウェアの誕生について理解する。 ・プログラミングの基礎についてアセンブラや順次・選択・繰り返し構造などについて理解する。 ・デジタル化のためのサンプリング定理・量子化や色空間、階調表現などについての概要を理解する。 ・音声処理、音声認識、音声生成の概要を理解する。 ・ニューラルネットワーク、ディープラーニング、機械学習、パターン認識の概要を理解する。 				
【授業概要】	コンピュータの仕組み、情報数学（ブール代数・論理演算・論理回路）、ハードウェア、ソフトウェア、アルゴリズムとプログラミング、情報理論（シャノンのエントロピー定理、情報圧縮の理論、誤り訂正符号の理論）、視覚・聴覚による情報、ニューラルネットワーク等、情報科学の基礎的な事柄の概要を原理に立ち返って解説する。				
【授業方法】	原則として配布する講義録にしたがって進める。技術の背景や本質的な意味について理解できるようにする。対面での実施を原則とする。				
【準備学習】	授業前に、アップロード済みの講義資料に目を通して理解に努めること。授業後に、演習課題の再実施をはじめとした復習を行うとともに、関連する情報を収集すること。				
【授業展開】	<ol style="list-style-type: none"> 1. はじめに 2. コンピュータの仕組み①（プログラマブル、電子デジタル化、ノイマン型など） 3. コンピュータの仕組み②（マイコンと周辺回路、計算処理から知的能力の増幅支援へ） 4. 情報数学の基礎（ブール代数、真理値表、ベン図、双対の原理など） 5. 論理演算と論理回路（ド・モルガンの定理、正論理と負論理、最小万能演算系など） 6. ハードウェア基礎（トランジスタの原理、記憶素子（メモリ）のしくみと用途など） 7. ハードウェア応用（デジタル回路の設計、カルノー図、加算回路など） 8. ソフトウェア基礎（オペレーティングシステム、表計算ソフト、文字入力ソフトなど） 9. アルゴリズムとプログラミング（アセンブラ、順次・選択・繰り返し構造など） 10. シャノンの情報量と平均情報量（エントロピー）に関する定理 11. 符号圧縮理論と誤り訂正符号理論 12. 視覚・聴覚による情報（サンプリング定理、エイリアシング、色空間、階調表現など） 13. 画像処理、画像認識、画像生成 14. ニューラルネットワーク、ディープラーニング、パターン認識概説 15. 総括 				
【履修条件】	（既習指定科目など）				
【評価方法】	講義中の課題 50%、レポート 50% で評価する。				
【テキスト】	講義録は講義時に配布する。				
【参考書】	授業の際に紹介する。				
【備考】	担当教員は機械メーカーにおけるシステム管理経験を有しており、コンピュータや情報技術に関する幅広い知識に基づいて講義を進める。				
【旧カリキュラム読み替え科目】	情報科学概論				
【社会人聴講生】	聴講可（事前確認要）	【科目等履修生】	聴講可（事前確認要）	【交換留学生】	聴講可（事前確認要）

【科目名】	国際法Ⅰ		International Law I		
【科目種別】	ブリッジ科目（国際関係学科）		【配当年次】	1・2	
【開講時期】	2024年度後期	【開講時限】	水曜3限	【オフィス・アワー】	前月5/後月水4 メールでご連絡ください。Zoom、電話又は対面で実施します。
【科目責任者】	坂巻 静佳				
【担当教員】	坂巻 静佳				
【授業目標】					
●授業目的	<ul style="list-style-type: none"> ・国際社会を法的な観点から評価できるようになること。 ・国際社会と国際法の変容、国際法が国際社会に果たしている役割とその限界を理解すること。 				
●到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・国際法の総論に区分される国際法の歴史、法源、条約法、国際法と国内法の関係の各分野に関する基本的な法規則・理論の内容、機能・役割、及び、法的論点を理解している。 ・これらの分野に関わる法規則の成り立ち、展開、その限界を理解している。 ・これらの分野に関わる国際社会の諸問題を、法規則を適用して法的な観点から評価できるようになる。 				
【授業概要】	<p>外国に旅行できるのはなぜでしょうか？外国から郵便が届くのはなぜでしょうか？海で魚をとることができるのはなぜでしょうか？その背後には、国際社会の基本的かつ共通のルールである国際法がかかわっています。</p> <p>国際法は、国家その他の一定の行為を規制し、一定の行為を認めることによって、国際社会の安定や平和に大きな役割を果たしてきました。今日、国際社会を理解するには、国際法を学ぶことが不可欠であるといえましょう。</p> <p>国際法の入門科目であるこの授業では、国際法の成り立ちを概説することを通じて、国際法の発展と現代国際法におけるきわめて重要な原則を学びます。また、国際関係を規律する国際法の基本的な枠組みを学び、国際法が国際社会においてどのように機能しているのかを把握します。</p> <p>国際法Ⅰは、これを受講すれば国際法の基礎的な部分はある程度押さえられるよう授業を構成していますので、国際法に興味のある方は手始めに受講していただければ幸いです。</p> <p>この授業を通じて、国際法についての理解を深め、国際社会を捉えるひとつの視点を手に入れてもらえればと思っています。</p>				
【授業方法】	<ul style="list-style-type: none"> ・本授業は講義形式で実施します。 ・ほぼ毎回の授業後、その授業の復習のために、提出は任意の、記述式の演習問題を課す予定です。 ・授業の連絡・課題の提出・授業資料の配布等は、Google Classroomを利用します。Universal Passportでは実施しないので御注意ください。 ・Universal Passportでの履修登録は当然に必要です。Google Classroomの本人確認のために使用するので、初回授業2日前までに、Universal Passportに履修登録しておいてください。 ・履修希望者は、初回授業までに、Google Classroomの国際法Ⅰクラスに参加しておいてください。 ・Google Classroomへの参加には、おそらくGmailアカウントの設定が必要です。 ・Google Classroomの登録名は、学籍登録してある氏名にしてください。Universal Passportで履修登録済みの氏名と合致しない場合は削除します。事情により困難な場合はメールで事前に御連絡ください。 ・Google Classroomへの参加方法は以下のURLを御参照ください。 https://onl.la/MyCBVku ・この授業のGoogle Classroomのクラスコード等は、9月末までにUniversal Passport上のシラバスに記します。10月1日以降にUniversal PassportのWebサイト等より御確認ください。 ・状況等によりZoom（同時双方向）による授業になる場合があります。 				
【授業展開】	<p>*進行状況その他により回が前後したり、内容が変更となる可能性があります。御了承ください。</p> <p>第1回 イントロダクション・法的評価の方法 第2回 国際法の特徴 第3回 国際法の歴史① 第4回 国際法の歴史② 第5回 国際法の歴史③ 第6回 国際法の法源① 第7回 国際法の法源② 第8回 条約法① 第9回 条約法② 第10回 条約法③ 第11回 条約法④ 第12回 条約法⑤ 第13回 国際法と国内法① 第14回 国際法と国内法② 第15回 まとめ</p>				
【履修条件】	<ul style="list-style-type: none"> ・授業の初回に進め方等について説明するので、本授業の受講を希望する者は可能な限り初回の授業に出席すること。 ・1年生での履修を推奨する。（その理由等については備考欄を参照のこと。） 				
【評価方法】	<ul style="list-style-type: none"> ・単位を取得するためには期末試験を受験しなければならない。 ・成績は、授業クイズ（36～45%）＋期末試験（55～64%）により評価する予定である。授業への参加および出席を考慮する場合もある。 ・変更のある場合は及び詳細は随時で説明する。 				

【テキスト】	<p>『国際条約集』（有斐閣、2024年）。 前年度までのものでもかまいませんが、毎年収録文書に変更があるので御注意ください。 前年度版までを使用することによる不利益については、すべて自己責任となりますのでご承知おきください。 また、試験での使用認めているのは、傍線を含め書き込みの一切ない条約集のみです。1つでも書き込みがあると使用できなくなりますので、使用の際は御注意ください。 教科書については初回の授業で説明します。</p>				
【参考書】	初回授業時に説明する。				
【備考】	<p>・本授業（国際法I）で扱う内容は、国際法II、国際法III及び国際法IVを受講する前提となります。また、国際法Iで扱う内容は、国際経済法、国際組織法を学ぶ上での前提ともなります。国際法I、国際法II、国際法III及び国際法IVはそれぞれ独立した科目で、単体でも受講可能ですが、内容的に一続きとなっており、国際法I、国際法II、国際法III、国際法IVの順序で履修されていくことを予定しています。国際法Iで扱った内容は理解していることを前提に、国際法IIの授業は実施されます。国際法IIIの授業は、国際法Iと国際法IIの知識を備えていることを前提に、国際法IVの授業は、国際法I、国際法II及び国際法IIIは履修済みであることを前提に、進められます。したがって、国際法II、国際法III及び国際法IVを履修する可能性のある学生は、1年生の段階で国際法Iを履修しておくことを強く推奨します。</p> <p>・国際法I、国際法II及び国際法IIIの単位取得は、坂巻担当の演習IAを履修する必要条件となっています。坂巻担当の演習を希望する可能性のある学生は、1年生の後期に本授業を履修するようお願いします。（2年生の後期水曜3時間目は第二外国語の授業が開講されるので、2年生後期に国際法Iを履修することは実際上難しい状況です。）</p>				
【社会人聴講生】	履修可。ただし以下の要件をみたくこと。 ・Googleアカウントを取得すること。（授業に関する連絡及びレジュメ等の配布は、Google Classroomを通じて実施する。授業では配布しないので注意すること。） ・状況等によりZoomで実施する場合がありますので、Zoomでの授業を受講の可能な通信とデバイスを利用できること。	【科目等履修生】	履修可。ただし以下の要件をみたくこと。 ・Googleアカウントを取得すること。（授業に関する連絡及びレジュメ等の配布は、Google Classroomを通じて実施する。授業では配布しないので注意すること。） ・状況等によりZoomで実施する場合がありますので、Zoomでの授業を受講の可能な通信とデバイスを利用できること。	【交換留学生】	履修可。ただし以下の要件をみたくこと。 ・Googleアカウントを取得すること。（授業に関する連絡及びレジュメ等の配布は、Google Classroomを通じて実施する。授業では配布しないので注意すること。） ・状況等によりZoomで実施する場合がありますので、Zoomでの授業を受講の可能な通信とデバイスを利用できること。